

株式会社ミュージックバード 第59回番組審議会議事録

1. 開催日時 平成25年9月11日(水) 15時00分～16時30分

2. 開催場所 TOKYO FM 10階 大会議室

3. 出席者

◆番組審議会委員

- ・矢内 廣 委員長
- ・福本 ゆみ 委員
- ・中西 健夫 委員
- ・佐野 光徳 委員
- ・村井 裕弥 委員

◆放送局

- ・一瀬 社長
- ・江川 常務
- ・雄谷 常務
- ・江森 技師長
- ・関田 監査役
- ・岩崎 プロデューサー
- ・田中 プロデューサー
- ・コンテンツ事業部 関根
- ・事務局 高木

4. 議事概要

今回は、cross culture チャンネルの特別番組「MPCJ MUSIC MEETING」(8月31日<土>12:00-14:00 出演：貝山知弘・鈴木道子・山崎浩太郎・上田和秀)について審議が行われた。

・MPCJ(ミュージック・ペン・クラブ・ジャパン)は、日本を代表する音楽とオーディオの評論家・ライターによる集合体。この特番では貝山知弘(MPCJ会長・オーディオ部門)、鈴木道子(副会長・ポピュラー部門)、山崎浩太郎(クラシック部門)、上田和秀(ポピュラー部門)の4人が出演、今年上半期のミュージック・シーンを総括しながら、各人がCDの推薦盤と推薦ライブ・コンサートを紹介。選曲が非常にバラエティに富んでおり、我々自身ではなかなかキャッチできないようなものも含まれていた。将来的に、より面白い番組になっていくだろう。

ということが放送局側から説明され、これに対して委員からは、

- ・音楽業界に限らず、日本の評論環境が貧しいことを問題だと感じる。様々な分野に関心はあるが行動を起こすまでに至らない人の背中を押す機会が、メディアを通してもっとあるといい。
- ・クラシック界の評論において、「良い」「悪い」という価値基準に抵抗を感じる。個人的な「好き」「嫌い」しか評価は存在しないのではないか。音楽家にとって、障がいの有無についてはハンデでなくアドバンテージでもありうる。日本における、評論の同調傾向は何とかしたい。

等の意見・助言があった。局からは

- ・確かに特定のものばかりに耳目が集中し、それ以外のものが広がらない、といった傾向を感じる。今注目されている「インタレストマッチ」にも引っかけられないようなタイプの楽曲をピックアップするチャンスをメディアが作ることは非常に重要と思う。そういった時に、評論家の方々のキャッチ力というか、紹介力を活用することを、この番組を軸に考えてみたいと思う。

との考えが説明された。